2018/12/15

第１回：開講式＋里山の現状を知る①

プログラム

- 9:00 開講の挨拶（主催者より）
- 9:10 研修会の趣旨説明とプログラム説明（事務局より）
  - 「丹波の森を未来につなぐフォーラム」の報告
  - 「30年後の森を描く研修会」の説明
- 9:30 参加者の自己紹介と今回の講師紹介
- 9:40 座学（里山の現状について）
- 10:40 休憩・フィールド（西紀運動公園）へ移動
- 11:00 西紀運動公園でのプロット作業（気づきや留意点の洗い出し）
- 12:00 昼食
- 12:40 西紀運動公園でのプロット作業（気づきや留意点の洗い出し）
- 15:00 感想の共有（何が課題か、どんな森づくりが出来そうか、など）
- 16:00 解散

30年後の森を描く研修会

- 2018年5月5日に開催された「丹波の森を未来につなぐフォーラム」。そのフォーラムで参加者のみなさんに絵に描いてもらった未来の里山のイメージを、実際に具現化し、維持継続していくために、地域にお住いの住民の方や団体の方々と、これからの里山の活かし方・楽しみ方を共に作っていくための研修会を５回シリーズで開催します。里山保全や森林整備の実際を体験し、さらにはその森林資源を活用した商品開発から製品化・販売につなげるまでの仕組みを知っていただけます。日本の豊かな自然資源を、「守り・育て・活用する」。今の時代に絶対的に必要な、この大きなテーマについて、現場の生の声を聞き、学んでいただける研修会です。

今回の講師：下田公徳氏

- NPO法人バイオマス丹波篠山スタッフ。里山整備や森林環境教育に精通。地域での生業、里山との関係性や、歴史を知ることで、地域に根ざすことの大事さやコミュニケーションの大切さを発信している。

2018/12/22

第２回：里山の現状を知る②

プログラム

- 9:00 開講の挨拶（主催者より）
- 9:10 座学（里山の現状について）
- 10:30 休憩・フィールド（丹波の森公苑）へ移動
- 11:00〜15:00 フィールド測量（途中昼食）
- 15:00 感想の共有（何が課題か、どんな森づくりが出来そうか、など）
- 16:00 解散

※天候次第で、プログラムが一部変更になる場合があります

30年後の森を描く研修会

- 2018年5月5日に開催された「丹波の森を未来につなぐフォーラム」。そのフォーラムで参加者のみなさんに絵に描いてもらった未来の里山のイメージを、実際に具現化し、維持継続していくために、地域にお住いの住民の方や団体の方々と、これからの里山の活かし方・楽しみ方を共に作っていくための研修会を５回シリーズで開催します。里山保全や森林整備の実際を体験し、さらにはその森林資源を活用した商品開発から製品化・販売につなげるまでの仕組みを知っていただけます。日本の豊かな自然資源を、「守り・育て・活用する」。今の時代に絶対的に必要な、この大きなテーマについて、現場の生の声を聞き、学んでいただける研修会です。

今回の講師：丹羽健司氏

- 信州大学農学部卒業後、農業、農林水産省を経て、現在、NPO法人地域再生機構で木の駅アドバイザー。2005年から市民参加型の森林調査「森の健康診断」を愛知県で開始し、2007年から「山里聞き書き塾」、2009年から木の駅プロジェクト、2010年から「組手什」による木育木装運動などを全国に普及している。矢作川水系森林ボランティア協議会代表、総務省地域再生マネージャー。著書に、『森の健康診断―100円グッズで始める市民と研究者の愉快な森林調査』（共著・築地書館）、『林業改良普及双書 No.171 バイオマス材収入から始める副業的自伐林業』（共著・全国林業改良普及協会）がある。

2019/01/12

第３回：里山整備とレクリエーション活用の基礎知識を学ぶ

プログラム

- 10:00〜12:00 木材市場の見学（場長・橋本功さん）
- 12:00〜13:00 休憩
- 13:00〜14:00 里山のレクリエーション活用について（兵庫県立大・澤田先生）
- 14:00〜15:00 里山素材を使ったワークショップ（兵庫県立大・吉野さん）
- 15:00 解散

※天候次第で、プログラムが一部変更になる場合があります

30年後の森を描く研修会

- 2018年5月5日に開催された「丹波の森を未来につなぐフォーラム」。そのフォーラムで参加者のみなさんに絵に描いてもらった未来の里山のイメージを、実際に具現化し、維持継続していくために、地域にお住いの住民の方や団体の方々と、これからの里山の活かし方・楽しみ方を共に作っていくための研修会を５回シリーズで開催します。里山保全や森林整備の実際を体験し、さらにはその森林資源を活用した商品開発から製品化・販売につなげるまでの仕組みを知っていただけます。日本の豊かな自然資源を、「守り・育て・活用する」。今の時代に絶対的に必要な、この大きなテーマについて、現場の生の声を聞き、学んでいただける研修会です。

今回の講師：澤田佳宏氏

- 兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科准教授 。1994年神戸大学大学院農学研究科修士課程修了。卒業後約6年間建設コンサルタント勤務後、 2005年より兵庫県立人と自然の博物館勤務。2007年より現大学院勤務。担当科目として 里地里山の保全管理論、 人・植物・健康「里地里山の植物とその利用」など。主な著書として「現代雑木林辞典（2001全国雑木林会議編. 星雲社分担執筆）」、「リーダーのための猪名川野草教室ー野草を使った環境教育『遊ぶ・学ぶ・考える』ー（2001野草環境教育研究会編分担執筆）」など。

2019/01/26

第４回：30年後の森をプランニング

プログラム

- 10:00〜10:45 現状のおさらい
- 10:45〜12:00 森づくりのイメージ・プランニング（グループディスカッション）
- 12:00〜13:00 お昼休憩
- 13:00〜14:15 商品づくりのイメージ・プランニング（グループディスカッション）
- 14:15〜14:50 グループ発表と感想の共有
- 15:00 解散

30年後の森を描く研修会

- 2018年5月5日に開催された「丹波の森を未来につなぐフォーラム」。そのフォーラムで参加者のみなさんに絵に描いてもらった未来の里山のイメージを、実際に具現化し、維持継続していくために、地域にお住いの住民の方や団体の方々と、これからの里山の活かし方・楽しみ方を共に作っていくための研修会を５回シリーズで開催します。里山保全や森林整備の実際を体験し、さらにはその森林資源を活用した商品開発から製品化・販売につなげるまでの仕組みを知っていただけます。日本の豊かな自然資源を、「守り・育て・活用する」。今の時代に絶対的に必要な、この大きなテーマについて、現場の生の声を聞き、学んでいただける研修会です。

今回の講師：ウチダ ケイスケ

- ランドスケープ（造園）デザイナー／木材コーディネーター
- ミドリカフェ・八百材舎代表。京都工芸繊維大学工芸学部卒業後、造園コンサルタントに約8年従事。独立後、都市部におけるエコでスローなライフスタイルを提案する「ミドリカフェ」を2007年にオープン。無添加・無農薬で育てる公園緑地や庭づくりの設計デザインやコンサルティングを行っている。
- 2013年〜2015年兵庫県立淡路景観園芸学校インストラクター、2015年〜神戸大学農学研究科学術研究員として篠山市地域おこし協力隊を支援。

2019/02/16

第５回：商品開発に挑戦

プログラム

- 10:00〜10:30 商品開発についてのお話
- 10:30〜12:00 商品のイメージをつくる
- 12:00〜13:00 お昼休憩
- 13:00〜14:30 プロモーションづくりについて考える
- 14:30〜15:00 感想と意見の共有
- 15:00 解散
  - 進行次第で、プログラムの内容が変更する場合があります。

30年後の森を描く研修会

- 2018年5月5日に開催された「丹波の森を未来につなぐフォーラム」。そのフォーラムで参加者のみなさんに絵に描いてもらった未来の里山のイメージを、実際に具現化し、維持継続していくために、地域にお住いの住民の方や団体の方々と、これからの里山の活かし方・楽しみ方を共に作っていくための研修会を５回シリーズで開催します。里山保全や森林整備の実際を体験し、さらにはその森林資源を活用した商品開発から製品化・販売につなげるまでの仕組みを知っていただけます。日本の豊かな自然資源を、「守り・育て・活用する」。今の時代に絶対的に必要な、この大きなテーマについて、現場の生の声を聞き、学んでいただける研修会です。

今回の講師：曽和 具之

- 神戸芸術工科大学　プロダクト・インテリアデザイン学科　准教授
- 昭和48年兵庫県芦屋市生まれ。芦屋市生まれ。「山、海へ行く」の街、高倉台で幼少期を過ごし、「株式会社神戸市」と言われた時代に少年期を送る。
- 高知大学理学部、千葉大学大学院自然科学研究科を経て、平成12年帰郷。
- 現在、神戸芸術工科大学にて地域の歴史・文化・人材資源の活用に根ざした、アート・デザイン活動を展開している。
- 主な担当科目としてプロダクト・インテリアデザイン実習、プロダクトデザインプログラムなど。
- 日本デザイン学会・芸術工学会・日本教育工学会所属。

実績報告書

第１回「開講式＋里山の現状を知る①」

日時	12/15　9:00-16:00
場所	座学：西谷公民館/現地調査：西紀運動公園
講師	下田公徳(バイオマス丹波篠山)
参加人数	一般参加 12 人、スタッフ４人
内容・様子 開講式として、この研修会が開催される原点である５月に開催されたフォーラムの様子や出た意見をまとめたムービを流し、この研修会の趣旨を説明した。 その後座学にうつり、講師の下田氏による現在の森の現状やかつての森林資源を活用した暮らし方について講話をおこなった。午後からは実際に山林に入り植生調査を行った。この山林は広葉樹や下層植生が豊富な雑木林であり、どんな植物が生えていて、どんな活用法ができるのかを説明してもらった。	

第２回「里山の現状を知る②」

日時	12/22　9:00-16:00
場所	丹波の森公苑
講師	丹羽健治(木の駅アドバイザー)
参加人数	一般参加 10 人、スタッフ３人
内容・様子 人工林の現状について講義をしたのち、参加者みんなで「森の健康診断」を行い、実際に人工林がどのくらい大変な状況なのか、理想な状態とはどのようなものかを、データをもとに考えた。どのような森にしていきたいか、そのためにどのような計画で施業していくか、さまざまな意見が飛び交い活発な議論となった。 市民が実際に森に入り、科学的なデータで状況を理解することは、それによって当事者意識と共通の言語をもって議論でき、目標とそれへの道筋を描くことができる、とても重要なことだと再確認できた。	

第３回「里山整備とレクリエーション活用の基礎知識を学ぶ」

日時	1/12　10:00-15:00
場所	丹波林産振興センター→丹波年輪の里
講師	橋本功(丹波林産振興センター) 高橋隆治(バイオマス丹波篠山)

	澤田佳宏(兵庫県立大学)
参加人数	一般参加 11 人、スタッフ 3 人
内容・様子 丹波市の林産振興センターにて、会長の橋本氏の案内で原木市場や競りの見学をした。そこで、いかに木材の流通量や価格が下がってきているかの現状をお聞きした。 その後、木材の種類や材質・特性などについて、バイオマス丹波篠山の高橋氏よりレクチャーを受け、講座の着地点である商品化に向けてのイメージを膨らせた。 午後は丹波年輪の里に移動し、兵庫県立大の澤田先生の講義のもと、里山の活用状況について学んだ。その後、実際にシュロの葉を使った箒づくりのワークショップを行い、現代のライフスタイルでもまだ必要とされる昔ながらの工具が、手作業でもつくりあげることの気づきを得た。	

第 4 回「30 年後の森をプランニング」

日時	1/26　10:00-16:00
場所	四季の森生涯学習センター
講師	内田圭介(ミドリカフェ)
参加人数	一般参加 12 人、スタッフ 5 人
内容・様子 これまで 3 回の研修会で学んだ森の現状や課題を振り返り、30 年後どんな森をつくっていきたいか、そのためにどんなことが必要か、どうしていくかをディスカッションした。それぞれの想いやアイディアを共有でき、熱い議論となった。 商品を使うこと（間伐が進むこと）で山は若返っていき、使う人も山を管理する人も幸せになる。そんな商品をつくりたいという意見がまとまり、次回の商品開発に向けたイメージをつくることができた。	

第 5 回「商品開発に挑戦①」

日時	2/16　10:00-16:00
場所	丹波年輪の里
講師	曽和具之(神戸芸術工科大学)
参加人数	一般参加 12 人、スタッフ 9 人
内容・様子 これまで学んだ森の課題を解決し、思い描く理想の未来の森を実現するための商品を考えた。実際にさまざまな木の端材を使いながら、商品のイメージを膨らませ、最後には各グループで考えた商品をプレゼンテーションし合いました。 角度を変えるワークを織り交ぜ、参加者の柔軟で斬新なアイディアがひかる盛会となった。	

第 6 回「商品開発に挑戦②＋閉校式」

日時	3/2　10:00-12:00
場所	四季の森生涯学習センター
講師	足立伸也(ナチュラルバックヤード)
参加人数	一般参加 11 人、スタッフ 5 人

内容・様子

前回に出たアイデアを足立氏に試作してもらい、加工過程での技術的な課題やコストの算出、そしてブランディングなどのノウハウを教えてもらった。今回の研修会の着地点は、プロトタイプまでつくるということで、研修会後も協力してもらっている神戸芸工大の学生さんたちと打ち合わせをし、方針的に、デザートナイフとサラダ用ナイフで商品化してみることになった。ただ商品化されるだけでなくて、材料の出所（GPS＋QR コード）が分かったり、森づくり基金付きにするなど、「30 年後の森づくり」に貢献していくための付加価値を付けていく。つまり、商品を使うこと（間伐が進むこと）で山は若返っていき、使う人も山を管理する人も幸せになる、研修会 4 回目の「30 年後の森のプランづくり」で出た意見とも合致するのになった。

活動写真

第１回

第２回

第３回

第４回

第５回

第６回